

2

東北地域におけるセット球を用いたタマネギの初冬どり新作型

《初冬期に新タマネギを収穫》

タマネギは、業務・加工用、家計消費用ともに年間を通じて安定的な需要があります。国内のタマネギ栽培は、暖地の「秋まき春どり栽培」と北海道の「春まき秋どり栽培」の2つの作型が主流であり、収穫物を貯蔵し、順次出荷することによって周年的に供給が行われています（表）。

畑作園芸研究領域

木下貴文

KINOSHITA, Takafumi



表／タマネギの慣行作型と初冬どり新作型の栽培暦

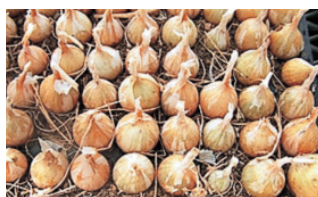
作型	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
秋まき初夏どり	東北以南 (主に西南暖地)			■	■	■	■	■	■	○	●		
春まき秋どり	北海道		○	●	○				■	■	■		
春まき夏どり	東北・北陸		○	●	○			■	■				
セット冬どり(慣行)	主に西南暖地	■		○	●	△	○			○			■
セット初冬どり新作型	東北			○	●	△	○			○			■

（表）。東北地域では、暖地における慣行の作型よりも1ヶ月程度早く収穫できるのが特徴です。

栽培条件としては、マルチについては地温を下げる効果のある白

冬期（11～2月）は、北海道で秋に収穫されたタマネギが主に流通していますが、球が硬く生で食べるのには向きません。そのため、九州や静岡県等の暖地には、生食用の新タマネギを冬に収穫する産地があり、通常の2.5～3倍程度の単価で取引されています。

冬にタマネギを収穫するための代表的な栽培方法として、セット栽培があります。本栽培法では、セット球（直径2cm程度の小球、写真）を夏期に定植することが特徴です。セット栽培は、九州等の暖地において技術開発が進んだものであり、寒冷地である東北地域の気象条件には適さないと考えられてきたため、栽培試験や現場での取り組みが行われることがほとんどありませんでした。



写真／セット球

しかし、東北地域では数少ない冬期に高収益生産が可能となる品目となりうることから、東北農業研究センターでは、セット栽培によって新タマネギを初冬期に収穫する新たな作型の開発を目指し、まずは基本的な栽培条件であるマルチの種類及び定植時期について検討を行いました。

しかし、東北地域では数少ない冬期に高収益生産が可能となる品目となりうることから、東北農業研究センターでは、セット栽培によって新タマネギを初冬期に収穫する新たな作型の開発を目指し、まずは基本的な栽培条件であるマルチの種類及び定植時期について検討を行いました。

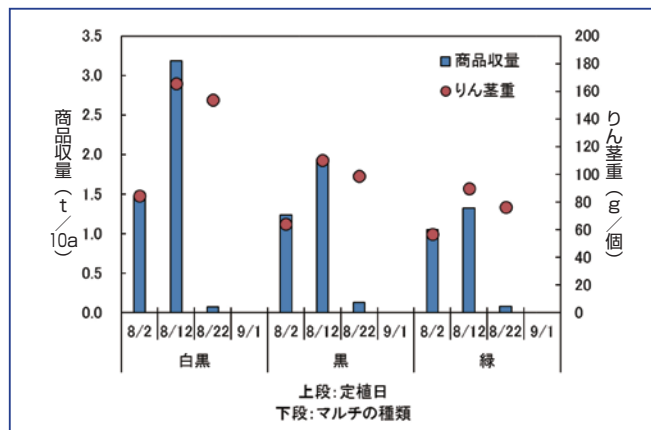
《東北地域における初冬どり作型の概要と特徴》

含水率が高く生食用に向く極早生品種を3月にセルトレイに播種して、無加温ハウスで5月まで育苗し、球径が約2cmに肥大したセット球を8月に定植して11月に収穫します

黒マルチ（白色面が表）の利用が適当で、定植日については、暖地の適期よりも3週間程度早い8月12日の定植で最もりん茎重が大きく商品収量が高いことが分かりました（図）。8月12日以外の定植日では収量が大幅に低いことから、セット球の定植に適した時期は短いと考えられました。

《今後の課題》

セット栽培は栽培工程のほとんどが手作業であることが普及の妨げでした。そこで現在は、タマネギ栽培で一般的に使われる移植機や収穫機を用いた機械栽培体系の構築を行っています。



図／マルチの種類及びセット球の定植日が収穫時のりん茎重及び収量に及ぼす影響

※収穫したりん茎のうち直径が50mm以上で、外部分球や腐敗のないものを商品性があるものとして図に示した。9/1定植分については、りん茎径がすべて50mm未満であった。